

# —キンクシペツ(山側を通る川)—

掲載地図は、松浦武四郎の自筆の「川々取調図」のキンクシペツである(↑印)。石狩川の左岸のアイヌ語地名である。

旭川を調査した永田方正は、明治二十四年刊行の『北海道蝦夷語地名解』で、この川を、「キンクシ

ユベツ(Kim-kush-pet奥川)」と地名解をした。

これに対し、昭和三十五年に、知里真志保は、「上川郡アイヌ語地名解」で、「キンクシペツ(Kim-kush-pet山側を・通る・川)」と地名解をした。

## 断章 旭川のアイヌ語 地名研究

(164)

高橋 基

名解をした。知里のアイヌ語地名解は、正しいのであるが、石狩川左岸の旭川市永山町には、「キム(キム山側、山の方)」に該当する「山がないのである。これは、地名が移動したものと推測される。

この「キンクシペツ」の地名移動については、松浦武四郎の書籍の解読の第一人者である、秋葉實氏の『松浦武四郎 上川紀行』(旭川叢書第二十八巻)に、詳細が報告されている。以下は、右の書の「ユウベツ一族の上川移住」(一五四ページ)の項目の概略である。

寛政二年(一七九〇年)

に、場所請負人勢力(村山伝兵衛)が、北海岸に進出し、モンベツに番屋を設けると、ユウベツの版図は、ソウヤ場所に併合され、惣乙名(ソウヤ)ユウベツコタンの

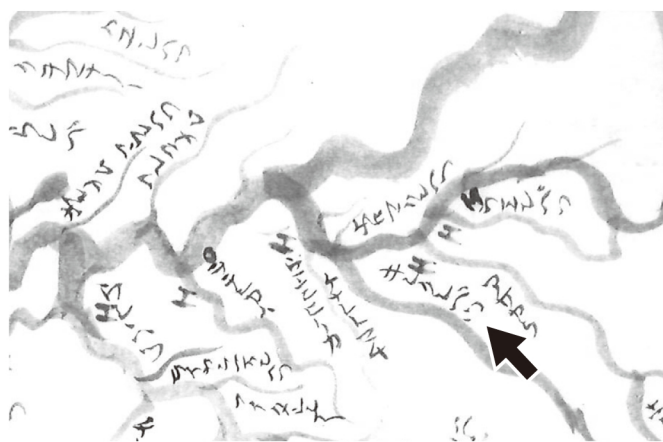
並乙名にされてしまった。以下、場所請負制度の悪制で、「このままでは一族の存亡にかかわる」と、乙名サケテカンは、エカシ(長老)たちと協議し、墳墓の地を去り、石狩上川へ逃避

することを決意する。文化四年(一八〇七年)、上川の乙名の承認を得て、コタンぐるみ堅雪を越え、牛朱別川上流に居を構え、そこをキムウンクシコタン(我ら山越えをして来た所の意、また、キンクシペツとも言った(現在の当麻町石渡川))。

それ故、文化四年に、近

されたらしく、サケテカンは、永山町七丁目川端に移り、そこをキンクシペツと称したらしい。安政四年(一八五七年)の松浦武四郎の『再篙石狩日誌』には、「是等元は北海岸なるユウベツのアイヌなるが、此処へ来て住まひせし者也。」と記述し、具体的に、二十三軒の名前を記録している。

藤重蔵が、比布から石狩川を下った時には、石狩川左岸には、このキンクシペツの名前が記載されなかったのである。さて、その後、現在の永山町以東をユウベツアイヌのイウオル(IWOR)狩りに許



松浦武四郎「川々取調図」

※毎月第一週号に掲載します  
(アイヌ語地名研究会幹事)